

第176回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

令和2年7月

- 日時: 2020年7月31日(金) 14:45-16:15 場所: 横浜市青少年育成センター 第1研修室
- ◆ 主催: 防災塾・だるま 総括運営: 鷲山龍太郎 総合司会: 山田美智子 記録: 田中 晃
 - ◆ 会議形式: 新型コロナウイルス感染症対策として、リモート併用の会議システムで実施。
 - ◆ 参加者: 47名 自見講師は厚生労働省執務室から ZOOM 参加
会場 23名 (会員 19名、一般参加 4名)、ZOOM 参加: 24名 (内 2名は会場参加)



演題: 「新型コロナウイルス感染症から
日本の医療政策を考える」
講師: 参議院議員 自見はなこ先生 (厚生労働大臣政務官・医)

*当日の講演資料は、だるま HP に掲載します。

荏本塾長挨拶

本日の講演は、だるまメンバー高橋のりみさん(横浜市議員)のお力添えにより、参議院議員・自見はなこ先生を講師にお迎えすることができました。自見先生は、厚生労働大臣政務官(医師)であり、感染症拡大阻止の最先端で国政に携わっておられ、又ダイヤモンド・プリンセス号の感染症対策には2月10日から現地で乗船され、陣頭指揮に執られました。この貴重なご経験からのご講演をいただけると期待しています。



<講演要旨>

- 参議院厚生労働畑に属し、虐待や医療と福祉の融合に取組み、2019年9月厚生労働大臣政務官に就任。
- 2019年12月、中国武漢市で原因不明の肺炎が発生、新型コロナウイルスによるものと判明。チャーター便で日本人を約500名受入れたが、知見がなく専門家チームを編成し対応した。指定感染症に指定し入院費用は公費負担とした。
- 2月3日「ダイヤモンド・プリンセス号」が横浜港に入港した。乗客2700人中2000人は高齢者と基礎疾患を持つ人(乗務員は1000人)。現場指揮のため2月10日に乗船、オールジャパン、ワンチームで取り組んだ。定時の打ち合わせでは、陽性者状況、搬送状況などを踏まえて実施事項が決められた。船長は落ち着いた声で、予定、見通し、励ましを船内アナウンスで情報公開。54か国を超える人たちの理解・協力を得ていた。
- 大前提は国内に持ち込まないこととし、感染対策は個室管理と感染防御、下船後に向けての基準、日々のオペレーション、感染者約700名を国内の治療機関に搬送し、3月1日に全員下船した。陽性者は病院に運ばれたが、一生の別れとなった方もおられた。下船後の感染は1件もなく目標を達成した。
- 国と現場のマネジメント、疫学調査、船内船外の搬送など幾多の教訓を得られ、世界に向け情報発信を行った。また、14日間の健康観察期間中には、国内感染者数が急増し、イタリア・ニューヨークはハンデミック中でした。
- 情報の共有のため、新システム<G-MIS(医療機関等情報支援システム)>を稼働。全国の医療機関から稼働状況、病床や医療スタッフの状況を一元化した。また、感染者等の情報システム<HER-SYS>も5月から稼働した。システムを創るのも人、改修するのも人、業務を整理しながらしっかりと仕組みを育てていきたい。

<質疑応答要旨>

- Q: プリンセス号は巨大な避難所化した。避難所運営でハード面、ソフト面でのポイントを教えてほしい。
- A: 感染予防の正しい知識が重要。説明会などで周知する(説明用動画あり)。必要物資などは行政と準備すること。
- Q: 鳥取県が条例化した「災害ケースマネジメント」を全国的に整備できないか。
- A: 復旧時には具体的に連携して取り組むことが多い。医療、介護、福祉でも同様で、現場でも工夫願いたい。
- Q: 現場での感染のホットスポットの対策として、安全衛生委員会等に職員の参加する範囲を広げたらどうか。
- A: 安全衛生法関係は通達で示されている。事業所別のチェックリストを作って、これを利用ください。
- Q: 専門家会議の見解と国の施策が必ずしも一致していない印象を受ける。都道府県レベルでは差が出てきている。
- A: 専門家会議の意向により政治判断するが、法律との整合性がある。県レベルでは神奈川方式の緊急医療体制がある。

●次回 第177回防災まちづくり談義の会 案内 (会場参加+ZOOM参加)

- ・日時: 2020年9月25日(金) 15時~16時30分
- ・会場: 横浜市青少年育成センター 第1研修室
- ・話題: 「横浜市の新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営について」
- ・講師: 人選中(横浜市危機管理室)

